

## 目次

新理事長就任のお知らせ 会員の皆様へのご挨拶.....	1
法文化学会第3回研究大会・総会を終えて.....	2
法文化学会の設立記念大会を振り返って.....	2
法文化学会第4回研究大会について.....	3
叢書『法文化 歴史・比較・情報』.....	4
叢書第2巻の発刊について.....	4
叢書第3巻の企画募集について.....	4
叢書第2巻『いちば/しじょうの法文化』（仮題）原稿募集のご案内.....	4
事務局からのお知らせ.....	5
学会事務局の移転 - 新事務局から.....	5
1999年度会計報告.....	5
年会費納入のお願い.....	5
入会の申込について.....	5
法文化学会入会申込書.....	6

## 新理事長就任のお知らせ 会員の皆様へのご挨拶

理事長 森 征一（慶應義塾大学）

春暖の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、真田芳憲（中央大学教授）に代わり、私が法文化学会の理事長を務めさせていただくことになりました。今になって、この職責の重さを痛感しているところでありますが、微力ながら私なりに法文化学会の発展のため、できるかぎり努力をいたす所存です。

21世紀を迎えて、法文化学会設立の呼びかけ人が予想したように、法の世界は大きく変わりつつあります。いうまでもなく、法は社会における人間の営みを入れる器です。そして、この人間の営みは、それぞれの歴史の成り立ちを異にし、それぞれが異なった文化観を映し出してきました。

しかしながら、この人間の営みは今、国際化と経済のグローバル化の波によって、構造的な変

革を迫られ、新たな器作りへと向かいつつあるように見えます。とはいえ、新しい法の文化は、様々に異なる人間の営みを容認した上で、人々が理解と対話の回路を通して交流しながら、忍耐強く新たな人間生存を模索していくという努力を抜きにしては生まれません。法に携わる者

は皆、なんらかの形で、この法文化の創造に関与する責務があるのではないのでしょうか。この意味で、法文化学会は21世紀における法の発展に重要な役割を果たすことになるかと確信します。

末筆ながら、会員の皆様には、時節柄ご自愛下さいますようお願い申し上げます。

### 法文化学会第3回研究大会・総会を終えて

第3回研究大会組織委員長 津野柳一（中央大学）

2000年11月25日、法文化学会第3回研究大会が、中央大学駿河台記念館にて開催されました。司法制度改革に伴う法学教育システムの再編が進められる今日、「法曹養成・法学教育の法文化」を大会のメインテーマとしたためか、当日は会場とされた部屋がほぼ満席になるほどの多くの参加者がありました。

理事長・真田芳憲会員（中央大学）の開会挨拶に引き続き、北山新治会員による「イギリスの法曹養成制度と法学教育」、山田八千子会員による「契約をめぐる市場の環境整備」、津野柳一会員による「法オントロジー研究への招待」、吉野一会員による「論理法学の法学教育における意義」、萩原金美会員による「法学教育・法曹養成制度の法文化」の計五本の報告が為され、それ

ぞれ活発な議論が行われました。

また、昼食前に行われた総会においては、旧年度の活動・会計報告の後、これまでの真田芳憲会員に代わって、森征一会員（慶應義塾大学）が新理事に就任することが認められました。

懇親会は、会場となった中央大学駿河台記念館の一階にある、レストラン・プリアールにて多数の参加者を得て賑やかに行われました。森新理事長の就任の挨拶により始められた懇親会は、席上、会員の間で各方面からの法文化研究の抱負や意見が披露・交換され、楽しくも学問的芳香の高い歓談の時は瞬く間に過ぎてゆきました。最後は有志による記念撮影があり、次の学会での再会を期し散会となりました。

### 法文化学会の設立記念大会を振り返って

第1回研究大会組織委員長 森 征一（慶應義塾大学）

法文化学会設立総会および第1回研究大会は、1998年10月24日（土）午前10時から、慶應義塾大学三田キャンパスの新研 A・B 会議室において多数の研究者の参加のもとで開催された。

開会に先立ち、本学会設立呼びかけ人を代表して、中央大学の真田芳憲教授からご挨拶があ

り、続いて研究大会に移った。

最初に「中国における所有」と題して、大阪市立大学の王晨助教授が、続いて、「啓蒙期自然法論における所有権の移転論 プーフェンドルフとヴォルフの断絶」と題して、名古屋大学の筏津安恕教授が報告をされた。司会は前者は星

薬科大学の森田成満教授が、後者は中央大学の津野柳一教授が務められた。

研究大会終了後、12時から設立総会が開かれた。まず、真田教授より法文化学会設立の経緯について説明がなされ、続いて学会規約の決定および学会役員の理事および監事の選出が行われた。役員選出後ただちに理事会が開かれ、真田教授が理事長に選出された。同時に、事務局を中央大学（津野研究室）に置くこと、駿河台大学の勝田有恒教授（一橋大学名誉教授）を顧問にお願いすることも決定された。

設立総会および昼食を終えた後、午後1時30分から「日本の法文化としての談合」と題して、勝田教授の設立記念講演が行われた。司会は一橋大学の山内進教授が行った。

研究大会での報告および記念講演は、学会の旗揚げに相応しく、充実した内容と白熱した議論とで、大きな盛り上がりを見せた。

記念講演の後、会場を同大学内の北館ファカ

ルティクラブに移し、午後3時から設立祝賀会が多数の会員が出席して盛大に行われた。司会は関東学院大学の村上裕教授が行い、理事長の挨拶の後、中央大学の木下毅教授の発声で乾杯し、法文化学会の門出を皆で祝った。当番校である慶應義塾大学の山田辰雄法学部長の祝辞の後、芳しいワインと美味しい料理をいただきながら、和やかな歓談のひとつきを過ごした。会員の先生方がお喜びになる姿を拝見し、大会での総合司会も含めて、微力ながら、これでなんとか当番校の会員としての責任を果たすことができたのではと思った。これも、中央大学の津野教授をはじめとしてお手伝いいただいた事務局の方々のご協力があったとのこと、感謝の気持ちでいっぱいである。

新宿の中村屋を舞台に進められた、有志による楽しくも骨の折れる準備作業を経て設立に漕ぎ着けたこの法文化学会が、今後大いに発展していくことを願って、本報告を終えたい。

## 法文化学会第4回研究大会について

第4回研究大会を以下の要領で行います。報告を希望される方は、4月21日までに、学会事務局（慶應義塾大学法学部、岩谷十郎）にご連絡ください。テーマにつきましては、叢書第2巻の編者による趣旨説明をごらんください。また、自由報告も予定しておりますので、テーマ以外の題目で報告を希望される方も歓迎いたします。

なお、報告希望者多数の場合は、学会事務局と大会開催校とで相談のうえ、報告者を決めさせていただきますので、予めご承知おきください。

1. 日程: 2001年11月17日(土)
2. 会場: 東京都国立市中2-1 一橋大学佐野書院
3. テーマ: 市場の法文化

事務局からのお願い ご報告をご希望される方は、法文化学会事務局まで、氏名・ご所属・連絡先・ご報告の題目（仮題でかまいません。またテーマ報告か自由報告かの別をもお知らせ下さいましたら幸いです）をご明記の上、以下のいずれかの要領でお送り下さい。なお、研究大会についてのお問い合わせも以下にてお受けいたしております。

・郵便： 〒108 - 8345

東京都港区三田2 - 15 - 45 慶應義塾大学法学部内 法文化学会

・FAX： 03 - 5427 - 1578 慶應義塾大学法学部内 法文化学会

・E-mail： juro@law.keio.ac.jp

\* ご報告を希望された方には、9月下旬頃に会員連絡用のご報告要旨のご提出をお願い申し上げます。これにつきましては、後日、事務局よりご連絡させていただきます。

## 叢書『法文化 歴史・比較・情報』

叢書第2巻の発刊について  
叢書編集委員会では、2001年2月13日の会合におきまして、叢書第2巻を「市場の法文化」（仮題）とし、加藤哲実（明治大学）氏を編者として作業を進めることに決定しました。

執筆を希望される会員は、編者の趣旨説明をお読みの上、4月21日までに学会事務局（慶應

義塾大学法学部、岩谷十郎）に題目（仮題で結構です）をつけたうえで、お申し込みください。なお、採否は編者ととも編集委員会が行うことになっております。

叢書第3巻の企画募集について  
第三巻のテーマを募集します。会員の意見を学会事務局までお伝えください。

### 叢書第2巻『<sup>いちば/しじょう</sup>市場の法文化』(仮題)原稿募集のご案内

叢書第2巻編集担当 加藤哲実（明治大学）

叢書『法文化 歴史・比較・情報』第2巻の原稿を募集いたします。

テーマおよび書名は『<sup>いちば/しじょう</sup>市場の法文化』(仮題)です。市場(いちば・しじょう)は複合的な概念であり、歴史的にも現代的にも重要な問題を含んでいます。歴史貫通的に存在する、物資の交換が行なわれる具体的な場所としての「いちば」においても、また、需要と供給、市場のメカニズムというような用語で表わされる近・現代の「しじょう」においても、その基底には人間的なつながりが存在します。本叢書では、この「人間的なつながり」あるいは「人間的なつながり」が時代の変遷の過程でどのように変容したかに焦点を当て、法文化の視角から歴史的な市場あるいは現代の市場を探求してみたいと思っています。会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

1. 原稿申し込み締切日: 2001年4月21日
2. 原稿提出締切日: 2001年12月10日(締切日厳守)
3. 刊行予定: 2002年3月
4. 原稿枚数: 2000字詰め原稿用紙で100枚以内

## 事務局からのお知らせ

学会事務局の移転 - 新事務局から  
森征一新理事長の就任に伴い、学会の事務局が、これまでの中央大学（津野柳一事務局代表）から慶應義塾大学（岩谷十郎事務局代表）に移転致しました。学会の設立からその運営を軌道に乗せるために、津野先生以下の事務局の方々が並々ならぬ努力を重ねられてこられましたことを、ここに改めて深く感謝致したいと思います。これまでの蓄積に基づいて、さらなる学会の発展に事務局として尽力致したいと思います。会員の皆様からも益々のご指導を賜れば幸いです。なお、学会誌（叢書）編集についてはこれまで通り、山内進会員（一橋大学）を中心に、また学会ニュースレターの発行については、屋敷二郎会員（一橋大学）のご協力を得て進めてまいります。

### 1999年度会計報告

1999年度の会計につきましては、白川和雄先生、萩原金美先生に監査を行っていただき、先日の総会にて承認されました。

#### 1999年度 収支

総収入	219,000
総支出	47,682
次年度繰越金	171,318

#### 1999年度 収入内訳

年会費	153,000
繰越金	66,000
計	219,000

#### 1999年度 支出内訳

郵送費	20,660
封筒代	2,226
駿河台記念館使用料	7,087
ネームプレート	5,775
フィルム代	934
アルバイト代（データ入力）	10,000
計	47,682

#### 年会費納入のお願い

学会員各位におかれましては、2001年度の会費の納入をお願いいたしたく存じます。同封致しました郵便振替にてお支払いください。

郵便振替口座番号：00130-4-659540

口座名義：法文化学会

#### 入会の申込について

この度、法文化学会入会申込書式を整えました。本ニュースレターの最終ページに掲載致しましたのでご参照ください。入会を希望される方に複写してお渡し頂ければ幸いです。所要事項を書き込み、事務局まで郵送ください（入会には理事会の承認が必要です）。

## 法文化学会入会申込書

法文化学会 御中

年 月 日

私は法文化学会の規約を承認し、下記の会員の推薦をもって、貴会への入会を申込みます。

ふ り が な  
氏 名

生 年 月 日 年 月 日

現 住 所 〒

Tel :

Fax :

Mail :

所属・地位

所属先住所 〒

Tel :

Fax :

Mail :

専 攻

最 終 学 歴 (卒業年次)

研 究 業 績 (主要なものを記して下さい。研究業績の無い場合には、従来の研究上の関心、今後の計画について記して下さい。)

学会よりの郵送・連絡先にどちらを希望されますか。( 現住所 ・ 所属先住所 )

学会名簿には、氏名・生年・現住所及びTel/Fax/Mail・所属・地位・現住所及びTel/Fax/Mail・専攻が記載されます。この内特に記載を希望されない事項のある方はお書き下さい。

( )

同氏の法文化学会への入会を推薦いたします。

氏名 \_\_\_\_\_ 印